

〔第23回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

企業との連携による歯髄再生医療の 実用化に向けた取組み

再生歯科医療研究室

庵原 耕一郎^{室長}

2024年2月20日(火) 15時00分～
第1研究棟2階大会議室

抜髄すると歯髄の歯を守る重要な機能が失われ、数々の弊害が生じて抜歯に至る可能性が高くなる。私は安易な抜髄は避け、歯髄が本来持つ炎症防御作用と自然治癒能力を最大限生かす「象牙質再生治療法」の研究を始めた。しかし、臨床応用しようとした場合薬剤開発企業が見つからなかった。この時、シーズを臨床応用するためには、研究資金と人材の他に、産学連携と事業化のプランニング、及び出口戦略が必要である事を学んだ。その後、歯髄幹細胞を分取し、抜髄後に細胞移植する「歯髄再生治療の開発」に成功し、公的資金を用いての臨床研究をおこなった。終了後、実用化戦略を考え、口腔関連事業を広く展開している企業と共同研究開発を開始できた。企業は歯髄再生治療の事業化に対して、健康長寿社会への貢献、世界初の歯髄再生治療の実用化、一定の市場規模と適切な利益の見込み、幹細胞を採取し個人バンクへ保管する事業の見込み等により、事業化スキーム、出口戦略を構築できると考えている。現在、支援いただき歯髄再生治療を実施し研究にフィードバックし、よりよい治療を開発している。今回、これまでの研究の流れから実用化に至るまでの取組み、および実用化した後においても研究開発を行う重要性についてお話しする。

座長：庵原 耕一郎 室長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)